
組みです。特にCO₂（二酸化炭素）などの排出を抑えることで、地球温暖化の防止に貢献します。

(7) グリーン成長戦略

日本政府が掲げる2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、環境と経済の両立を目指す産業政策です。単なる環境対策ではなく、成長の機会としてのグリーン分野への投資・技術革新を促進することが特徴です。

(8) SBT (Science Based Targets)

科学的根拠に基づいて設定された温室効果ガス（GHG）削減目標のことです。企業が気候変動対策として掲げる目標が、パリ協定の目標（気温上昇を1.5℃以内に抑える）と整合しているかどうかを評価・認定する国際的な仕組みです。

(9) RE100/EP100

企業が気候変動対策として取り組む国際的な枠組み（イニシアチブ）を意味します。

RE100 (Renewable Energy 100) は、世界で影響力のある企業が、事業で使用する電力の再生可能エネルギー100%化にコミットする協働イニシアチブのことで、情報技術から自動車製造まで幅広いグローバル企業が多く参加しています。

EP100 (Energy Productivity 100) は、事業のエネルギー効率を倍増させること（省エネルギーを50%改善等）を目標に掲げる企業が参加する国際企業イニシアチブのことで、消費エネルギー単位毎の経済生産性を2倍にすることで、企業はエネルギーコストの削減および競争力強化の恩恵を受けることができると同時に、排出削減、雇用創出、エネルギー安全保障の改善を実施することができます。

(10) カーボンクレジット／オフセット

温室効果ガス（GHG）排出量を相殺するための仕組みで、企業や個人が排出量を実質ゼロに近づけるための手段として活用されています。

カーボンクレジットは、1トンのCO₂排出削減・吸収に相当する「排出権」のことで、企業や団体が排出削減プロジェクト（例：再生可能エネルギー導入）を通じて得た削減量を「クレジット」として販売できます。

カーボンオフセットは、自らの排出量を他の場所での削減・吸収によって「埋め合わせる」